



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ2010 推進ニュース

— 介護ウェーブの “Big Wave” をおこそう! —

方針「今後の介護ウェーブの取り組みについて」を具体化し介護改善要求の声を国会に届けよう!

**「輝き・絆・誇り」介護に明るい未来を / 輝く「介護に未来を」絆「利用者患者を結ぶ絆」誇り「胸張って誇れる介護を」
「第3回介護職員交流集会」(2010年3月13日)開催! 100人が参加(福岡県民医連)**

福岡県民医連主催「第3回介護職員交流集会」が福岡市内で、関係者も含め100名の参加で開催されました。開会挨拶で、宮川昇実行委員長は、全日本民医連第39回総会で民医連綱領に「介護」の文言が入った経過や、介護ウェーブの前進に確信を持って、パブリックコメントや交渉も行い、さらに制度の改善を進めようと提起しました。この後、北築前会特養津屋崎園の高山和子施設長、永島真由美介護長の記念講演を受けて、「介護マップ」「その人らしさとは、わたしたちにできるケア」「わたしたちの言葉で介護理念を創ろう」の3つのテーマに別れ、グループワークを行いました。

福岡県民医連では、療養病床や通所・施設・住宅など多岐にわたる介護職員の交流が課題です。今回は県連に介護職部会が誕生して初の集会で、テーマの議論や運営をじっくり議論し、テーマである「介護の輝く・絆・誇り」を正面から捉えた集会となりました。

グループワークで「認知症介護」「介護理念づくり」など現場で抱える悩みを共有



記念講演で高山氏は、介護職員の生きがいや、介護職員に充実感を持たせる自らの施設での実践等を紹介しました。開設30年以上になる特養津屋崎園では、介護の基本は「人」であると考え、「人材から人財へ」という理念で施設運営を行ってきた経験として、「基本的な所作、笑顔、挨拶が全ての基本で、生き活きと働くことは、全ての質の向上につながる」と強調しました。また、困難に直面しても、「成功するまでやり続けることが大事で、成功しないのは途中でやめてしまうからである」と、働き続ける上での視点を示しました。その他、月に10日間程度、施設美化強化週間を設けて、

職員自身で清掃・修繕を行い、古い施設であっても臭いの問題もなく、週間としてメリハリをつけることで施設は清潔に保たれている取り組みが紹介されました。永島氏は、認知症入所者を通じての施設での取り組み事例等について、紹介がされました。特に、各職種の特性を生かした関わり方が生活の質を上げるカギになることが強調されました。

3つのテーマに分かれたグループワークは、さらに小さい単位の班を作っておこなわれました。アイスブレイク、問題例示、ディベート、KJ法など創意工夫をこらした取り組みでした。

第1グループ「介護マップ」では、認知症問題行動の介護を通して「正しい介護」「良い介護とは何か」を議論し介護観を共有する取り組みをおこないました。第2グループ「その人らしさとはわたしたちに出来るケア」では、ケアプランの症例検討を通して気づきの大切さを学びました。巧みなアイスブレイクと役割分担の持たせ方で参加者の職場レクで活かせる経験を積むことができました。第3グループ「わたしたちの言葉で介護理念を作ろう」では、性格、言葉遣い、態度において、短所を長所に変えるトレーニングや思考方法を実施し、高齢者の気持ちになり、介護をさせていただくという気持ちを持つことの重要性を学びました。

参加者から、グループワークは「認知症介護」「介護理念づくり」など現場で抱える悩みの共有や「理想の介護」を忌憚(きたん)なく議論し、3時間じゃ時間が足りない等の声が多く寄せられました。福岡県連、これからも介護ウェーブを起こしていきます。

(2010年3月30日 福岡県民医連 山岸さんより)

お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp